

■ 十和田湖開発の父

和井内 貞行

わい ない さだ ゆき

出身地 鹿角市

1858年（安政5年）～1922年（大正11年）

魚が棲まない十和田湖で養魚を志す。調査研究を重ね、ついにヒメマスようしよくの養殖に成功する。また、十和田湖の国立公園編入運動へんにゆうに取り組み、総合的な観光開発に尽くす。



年譜

- 1858年 鹿角市かづのに生まれる。幼名・吉弥ようめい きちや。
- 1881年 工部省小坂鉱山寮吏員りょうりいん、十和田湖鉱山詰づめ。
- 1884年 養魚を志し、鯉こいの稚魚ちぎよ600尾十和田湖に放流。
- 1896年 はじめて鯉ほかくを捕獲。小坂鉱山を辞し養魚せんねんに専念。
- 1897年 湖畔こはんに旅館観湖楼かんこうろうを建て、湖の観光宣伝せんでんをする。
- 1899年 川鱒かわます5000尾びを放流、
翌々年日光鱒よくよくねんにっこうます3500尾び放流。
- 1902年 ヒメマスたまごの卵こうにゆうを購入、翌年より稚魚よくねん放流ちぎよ。
- 1905年 ヒメマスようしよくの大群が回帰、養殖に成功。
- 1916年 生出おいでに十和田ホテル建設。
- 1922年 鹿角市かづので没ぼつ。64歳さい。